

株式会社 WOWOW プラス 番組審議会議事録（2026 年 7 月 16 日開催分）

開催年月日： 2026 年 7 月 16 日（木） 11：00～12：00
開催場所： 株式会社 WOWOW プラス内 Space17C 会議室

出席： 番組審議員 7 名
WOWOW プラス 6 名

出席者

〔審議員〕 青木眞弥、太田秀樹、音好宏、朱牟田眞吾、中町綾子、
原田健明、村上典吏子（以上 50 音順、敬称略）

〔放送事業者〕（株式会社 WOWOW プラス）

宮澤辰之、森田健介、松田健吾、植竹伸剛、
内藤友基（記録撮影）、高野佳彦（書記）

議題： （1）2026 年 4 月～6 月の「WOWOW プラス」に対する視聴者からの問い合わせや
指摘・意見について
（2）「WOWOW プラス」の番組内容、編成内容に関する審議

はじめに： 今回、複数の審議員の交代があったことに伴いあらためて本会の委員長および委員長
に差支えある場合の備えとして副委員長の選任についての必要性を述べ、事務局から
の提案として音好宏に委員長を、青木眞弥並びに村上典吏子に副委員長を委嘱したい
旨を議場に諮ったところ、審議員全員がこれに異議なく賛成した。

報告事項： 2026 年 4 月～6 月の「WOWOW プラス」に対する視聴者からの問い合わせや指摘・意見
について
株式会社 WOWOW プラス メディア戦略局長より代表的な内容等の概要説明を行った。

審議事項： 〔審議番組〕
『私生活のない女 [4K レストア版]』

<審議番組概要>

1984 年の公開当時、その過激な映像表現と深遠なテーマ性で「映画界に放たれた衝撃」と
評されたアンジェイ・ブザウスキー監督のフランス映画。今回は、2025 年 11 月に本国フランス
で発表された最新 4K レストア版を放送用マスターに使用。フランス公開時のオリジナル・ネ
ガフィルムを基に、強烈な色彩や、粒子の荒々しさを維持しつつ、解像度を極限まで高めた
修復が行われています。放送にあたっては、本国より届いたマスターをカット編集等は行わ
ずに使用し、当社放送基準に則り修整（ぼかし）を施すとともに、編成時間を夜 23 時以降に
限定することで、一般視聴者への配慮と作品の芸術性の維持を両立させました。

※番組解説文に「[4K レストア版]をマスターとした 2K ダウンコンバート放送」と記載してご案内

- ・世界の芸術映画を最新マスターで放送する多様性・希少性を重視した編成方針と、それが
WOWOW プラス視聴者にとって価値ある番組と考えられるか。
- ・過激な表現を含む映画に対して行った修整や編成時間の配慮は視聴者の理解を得られる
適切な範囲であったか。

審議内容： ■審議員意見

- ・劇場未公開の 4K レストア版という点で希少性が高く、23 時以降の編成は一般視聴者への
配慮として適当である。性表現面では、劇場での無修正になじんだ映画ファンにとって TV
放送のぼかし処理は中途半端に映る側面もあるが、TV 放送の性質上やむを得ない。一方、
事前情報のない視聴者にはハードルの高い作品だが、こうした希少な作品の放送こそが
局の本来の姿勢であり、支持するファンも多いため今後も推進してほしい。その際、視聴
者の知識だけに頼らず、番組や公式 HP 等で詳しい解説やガイドを提供することが重要。
背景情報を補うことで、事前知識のない層の興味関心を広げ、新たな視聴者層の獲得に
もつながるのでは。

- 本作は監督の強い作家性が顕れた刺激的な作品であり、放送の文化的価値は高い。重い表現を含むため深夜帯での放送は妥当であり、事前ガイドや特集枠での位置づけがあればより親切だった。技術面では 4K レストア版を尊重し丁寧に届ける姿勢を評価したい。暗部の階調再現などに課題はあるが、マスターや送出の品質管理、音声・字幕の配慮が専門チャンネルの価値を高める。単なる難解な作品の放送ではなく、旧作を現代の品質で届ける試みとして評価できる。今後も作品解説や編成上の配慮に加え、映像・音声品質へのこだわりやレストア情報の発信に期待したい。
- 本作は、ミニシアター系作品の一角の未見の重要作として興味深く鑑賞した。映画を完全に理解できずとも当時の空気感や感情を受け取るという、映画本来の楽しみ方を思い出させてくれた。ぼかし処理のご苦勞は察するが、何が正解か、については公開当時に立ち返る視点があって良いし、また、現代の視聴者層を鑑みれば、少なくとも自分は着衣でも一糸纏わぬ姿でもどちらも魅力的で美しいと感じたのでそこまで不愉快に思われることも多くはないのでは。放送時間帯については、深夜帯では働く人が没入しにくく、可能であるなら昼や夕方放送枠という選択肢も含め、ターゲットに合わせた柔軟な検討を期待したい。
- 作品としてはすごく難解。自身にとってこうした映画に触れる貴重な鑑賞体験となった。修正は以前より様々な制約の中で連綿とされてきたと思うが、果たして「修正なし」という選択肢は取り得るのか？もし「取り得ない」のであればとやかく申し上げられることはない。放送帯時間については、視聴分析データ等に基づきターゲット層の生活習慣を想定したものなのか、あるいはセーフティファーストということで深夜を選ばれたのか、は気になるところ。自主規制としての時間帯選択なのであればもう少し見やすい時間帯にリーチ取るといったのも一つの選択肢では。様々クレームやリスクがあり現実には会社としては取りにくい選択であることは理解するが検討されてみてはいいかがか。
- 放送時間やぼかし処理は TV 放送である以上は適切で問題ない。本作のように 40 年以上前の作家性の強い作品は他の配信系でも視聴可能な場合があるからこそ、いま専門チャンネルで放送することに意義がある。他の作品も含め「なぜ今このチャンネルで放送するのか」という文脈を提示することこそが専門チャンネルの役割であり、矜持である。すべてのコンテンツに対して意図と情熱を持って向き合う姿勢が、チャンネルのブランディング向上に最も重要だと考える。
- 芸術性のある作品を 4K レストア等の最新マスターで放送し、必要に応じて自主規制の処理を行う対応は適当である。それ以上に重要なのは、編成における多様性や希少性を重視し、今後どのような作品を届けていくかという視点。本作のように作家性が強く、1984 年の劇場公開という背景や時代性を持つ作品については、番組冒頭で短い解説を提供するなどの工夫が欲しい。視聴者が自ら選択して鑑賞する前提であっても、事前の情報提供があることで作品をより深く楽しむことができ、コアなファンのニーズにも応えられる。
- 1980 年代の作品だからこそ、放送意図を伝える解説を添えることが加入者への配慮や新規視聴者発掘につながると考える。シネフィル時代からのヨーロッパ映画の編成はチャンネルの独自性を示すため、ぜひ継続してほしい。本作品の WOWOW オンデマンドでの 4K 作品展開との連動の可能性、社内での位置づけや今後の展開についても気になるところだ。性表現のぼかし処理は、一定の規制がある免許制度の中で展開されていることや家庭内での家族一緒にの視聴を考慮すると深夜帯編成も含め不可避であり、安心して視聴できるチャンネル作りの観点からも適切な措置といえる。ただし、社会状況の変化に合わせて表現のあり方を柔軟にアップデートしていく視点も必要であろう。

連絡事項： 次回番組審議会は、2026 年 10 月 15 日(木)午後 5 時(予定)より開催。

以上